



申込はこちら

参加費

無料

定員 150名

跡見花蹊が 描いた夢を、 私たちの未来へ

会場 跡見学園女子大学 文京キャンパス ブLOSSAMホール

2026年 5月24日(日) 13:00~15:30

(12:30開場)

プログラム

挨拶・解題

森 まり子 [跡見学園女子大学 学長]

報告

今田 絵里香 [成蹊大学 文学部教授]

植田 恭代 [跡見学園女子大学 文学部教授]

栗田 秀法 [跡見学園女子大学 文学部教授 / 花蹊記念資料館 館長]

松井 慎一郎 [跡見学園女子大学 文学部長]

—休憩—

パネルディスカッション

司会 西原 麻里 [跡見学園女子大学 文学部准教授]

特別展示

跡見学園女子大学
花蹊記念資料館で開催された
企画展『没後100年 跡見花蹊』
の一部を特別展示します。

明治、大正、昭和という激動の
時代を生き抜いた花蹊。
画家、書家、教育者としての
あゆみを振り返ります。
ぜひご覧ください。



期間 5月24日(日)~5月29日(金)

時間 10:00~16:00 [最終入場15:30]

跡見学園女子大学
ATOMI UNIVERSITY



跡見花蹊が描いた夢を、私たちの未来へ

跡見学園の学祖・跡見花蹊が、ここ東京に女子のための学校を設立して150年。「女子」を取り巻く価値観は時代とともに変化し続けています。

現在、女性のための高等教育機関である女子大学では、社会にまだまだ残る旧来的なジェンダーの縛りにとらわれず、女性たちに自分らしく生きる力を発揮できるための学びを提供することが大きな使命となっています。

この時代において、150年前の跡見花蹊の教育理念や実践を学ぶ意義とは何でしょうか。それは、日本の女子教育が始まった最初期において、当時の女性たちにとって必要な教育として、国内外の教育者の知見を得ながら美術や英語、倫理学といった分野を重視していたことや、女子生徒一人ひとりの個性や特徴をよく把握していたことにあると考えられます。

本シンポジウムでは、跡見花蹊の教育理念や実践の様子から、**跡見学園女子大学だからこそできる女子教育とは何か**を考え、現代と未来につなげるための女子教育の意義を問うていきます。

タイムスケジュール

- 13:00 挨拶・解題 森 まり子 [跡見学園女子大学 学長]
- 13:10 報 告
「明治期の女学生と女学生文化」
今田 絵里香 [成蹊大学 文学部教授]
「跡見花蹊の心と教育—伝統を未来に繋ぐ—」
植田 恭代 [跡見学園女子大学 文学部教授]
「跡見花蹊の教育理念の現代的意義」
栗田 秀法 [跡見学園女子大学 文学部教授 / 花蹊記念資料館 館長]
「跡見花蹊を支えた人々」
松井 慎一郎 [跡見学園女子大学 文学部長]
- 休 憩 —
- 14:25 パネルディスカッション
- 15:30 閉会あいさつ 土居 洋平 [跡見学園女子大学 地域交流センター長]

司 会 西原 麻里 [跡見学園女子大学 文学部准教授]

※内容は一部変更となる場合があります。



シンポジウム申込み



アクセスMAP

オープン
キャンパス
同日開催